

### 事例3 社会的な見方・考え方を働かせるために指導方法を工夫した事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 (歴史的分野) B 近世までの日本とアジア (2) 中世の日本
- 事例のポイント
  - ① 単元計画の工夫をすることで、生徒が自己調整（自らの学習の調整）を図りながら学びを深めていくことができるようにする。
  - ② 「問い」を工夫することで、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて学習を進めていくことができるようにする。
  - ③ ICT端末を用いてポートフォリオ式ワークシートを蓄積することで、生徒の学びの振り返りと教師の適切な評価につなげる。

#### 1 小単元名 「中世の日本」(11時間)

#### 2 小単元について(略)

#### 3 小単元の目標と評価規準

##### (1) 目標

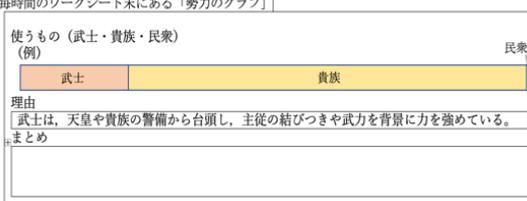
- ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解する。
- ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・中世の日本に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

##### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。</li> <li>・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。</li> <li>・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)から(イ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・中世の日本を大観して、時代を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</li> <li>・学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</li> </ul>

4 小単元の指導計画・評価計画（11 時間）

●「学習改善につなげる評価」 ○「評定に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点			【観点】評価規準 ★働かせる見方・考え方
		知	思	態	
単元の導入（1時間）	<p>・小学校で学習した中世の偉人を挙げ、彼らがどのような人物であったか考え、中世のイメージを膨らませる。その後、課題を提示し「社会科学びの地図」に初発の考えを記入する。</p> <p>編 P 50 指導計画作成の留意事項(1)</p> <p>毎時間のワークシート末にある「勢力のグラフ」</p> 	●	●	○	<p>事例のポイント① 「勢力グラフ」を用いながら、中世という時代の身分の違いについて毎時間疑問を投げかけることで生徒が、中世とはどんな時代なのか、見通しを持ちながら学習ができる。</p> <p>○中世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ★様々な身分を比較し、武士が力をつけていった推移を、事象と関連させながら考察できる。</p>
		○	○	○	<p>事例のポイント② 武士政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達に着目して、社会的な見方・考え方を明確にした「問い」の工夫をする。</p>
<p><b>単元を貫く問い</b> 中世はどのような人が力を持ち、変化し、近世につながったのか</p>					
第一次（3時間）	<p><b>課題</b> 武士はなぜ生まれ、どのように権力を持っていったのだろうか</p>	●	●	○	<p>★年代の時期や、武士が力を握った推移や変化に着目させる。</p> <p>事例のポイント② 社会的な見方・考え方を明確にした「問い」の工夫をする。</p> <p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府の成立、元寇などを基に、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。</li> </ul>
	<p>①武士はどのようにして実権を握ったのだろう 資料を活用し、朝廷内の対立から武士が力をもつようになった過程について考察する。</p>	●	●	○	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
	<p>②鎌倉を中心とした武士の政権はどのような特色をもっていたのだろうか 貴族と武士の政治を比較し、武家政治の特色を理解する。</p> <p>事例のポイント③ ICT機器を効果的に活用することで、生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究している様子をすぐに把握し、生徒の学習改善につなげる評価を行うことができる。</p>	○	○	○	<p>事例のポイント① 評価は、短い期間で行うだけではなく、生徒が自ら見通しを立て、学習の進め方を振り返り、自己調整（自らの学習を調整）を図りながら学びを深めていく過程も捉えるようにする。</p>
<p>③元寇はどのような影響を及ぼしたのだろうか 資料をもとにした考察を通して、元寇が幕府の衰退につながったことを理解する。 第一次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題（武士はなぜ生まれ、どのように権力を持っていったのだろうか）を考察し「社会科学びの地図」に記入する。</p>	○	○	○	<p>【主】 鎌倉時代の日本について、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</p>	

第二次 (3時間)  本時	<b>課題</b> 鎌倉幕府が滅び、武士の影響力はどのように変化したのだろうか								
	①もし自分が1330年代の武士なら、人物A・Bどちらにつくだろう <b>(本時)</b> 武士の行動を考察し、南北朝時代の特色を捉える。		●	●	<b>★鎌倉・室町時代の比較、相互事象の背景や結果に着目させる</b>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           事例のポイント②            社会的な見方・考え方を明確にした「問い」の工夫をする。         </div> <b>【知・技】</b> ・南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。  <b>【思・判・表】</b> ・東アジアにおける交流に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察して、表現している。  <b>【主】</b> ・南北朝時代から室町時代初期の日本について、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。				
	②室町幕府はどのように成立し、支配を確立したのだろうか 既習事項である鎌倉幕府との比較し、室町幕府の特色を考察する。		●						
③幕府と東アジアとの関係は国内にどのような影響を与えたのだろうか。 資料をもとに活発な対外交流の様子を捉え、社会に大きな影響を与えたことを理解する。 第二次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題（鎌倉幕府が滅び、武士の影響力はどのように変化したのだろうか）について考察し「社会科学びの地図」に記入する。	○	○							
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           事例のポイント①            対話的な活動を通して、自分自身の学びを見直したり、新たな発見をしたりすることで、自らの学びを調整することができる。         </div>								
第三次 (3時間)	<b>課題</b> 民衆の成長を背景にどのように社会や文化は変化したのだろうか								
	①なぜ室町時代に貨幣による経済が成り立ったのだろうか 資料を活用して考察し、話し合った結果を発表し、単元の見通しをもつ。	●		●	<b>★室町時代の推移や事象相互の関連、時代の特色に着目させる</b>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           事例のポイント②            社会的な見方・考え方を明確にした「問い」の工夫をする。         </div> <b>【知・技】</b> ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。  <b>【思・判・表】</b> ・農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察して、表現している。				
	②応仁の乱によって、社会はどのように変化したのだろうか 経済の発達や民衆生活の変化の様子を、資料の読み取りを通して理解する。	●	●						
③中世の文化はどのような特徴をもっているのだろうか 現代の私たちの生活や文化と関連づけながら、中世の文化の特徴を考察し理解する。 第三次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題（民衆の成長を背景にどのように社会や文化は変化したのだろうか）について考察し、「社会科学びの地図」に記入する。	○	○							

					【主】 ・室町時代の日本について、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
単元のまとめ (1時間)	中世とはどのような時代だったのか、歴史新聞を作成する。「社会科学びの地図」に単元を貫く問いの解を記入する		○	○	【思・判・表】 ・中世の社会の変化の様子について、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目し、比較したり関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察し、獲得した知識を活用して学習を振り返る中で、時代の特色を文章や図などでまとめている。
	事例のポイント③ ICT機器を効果的に活用することで、生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究している様子をすぐに把握し、生徒の学習改善につながる評価を行うことができる。				【主】 ・この中項目における自身の学習の過程について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしているとともに、中世の社会の変化の様子から近世に向かう動きをとり上げるなど、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
	単元を貫く問いの解 (例) 中世の基礎は、武士によって築かれたと考える。しかし、国内で動乱や地方武士の台頭、国外では元寇や明の統一などの影響を受け、武家社会は変容していった。そして、戦国大名が自らの領地を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興を努めたりした点などが、近世につながったと考える。				
	事例のポイント① 単元を通して行われる教師の学習改善につながる評価によって、課題解決のための道筋が合っているのかを確認したり、違う角度から事象を捉えたりなど、自らの学習を観察し、調整することができる。				

## 5 本時の学習指導 (5/11 時間)

### (1) 目標

- ・二人の武士を比較する学習を通して、武家政治の動きとその特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・南北朝の争乱期の日本について、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

### (2) 展開

学習活動等	・指導上の留意点 ★働かせる見方・考え方	観点 具体の評価規準
1 1333年に鎌倉幕府が滅びることを確認する。 2 本時の課題をつかむ。	・社会が混乱していた時代に、当時の武士は生き残るためにどのような選択をしたのか、切実感をもたせる。 ・当時の代表的な武士であり埼玉県とも関係の深い、足利尊氏 (A) ・新田義貞 (B) を例とすることで生徒に歴史を身近に感じさせる。	事例のポイント② 比較・事象同士の因果関係など、社会的な見方・考え方を明確にした「問い」の工夫をする。
【本時の課題】 もし自分が1330年代の武士なら、人物A・Bどちらにつくだらう		
3 課題について個人で考察し、ICT端末を活用し資料をまとめる。	・資料をもとにして、根拠をもって考えをまとめさせる。	

	<p>★どちらの人物につくべきかを「武士政治の進出と展開」に着目し、類似や差異などを明確にし、事象同士の因果関係などで関連付けてまとめる。</p>	
<p>4 グループでA派・B派で議論し、グループの結論をスライドにまとめ、発表する。</p> <div data-bbox="311 488 662 672" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント① グループ活動を通して、自分自身の学びを見直したり、新たな発見をしたりなど、自らの学びを調整することができる。</p> </div> <p>5 「まとめ」を記入し、発表する。</p> <div data-bbox="204 757 651 878" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント③ ICT端末を活用して生徒の学習改善に生かすことができる評価を随時行う。</p> </div> <p>6 「振り返り」を記入する。</p> <div data-bbox="183 1377 641 1594" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント① 学習の結果としての目標の達成状況を自己評価する。また、「社会科学びの地図」を活用し、教師が学習改善につながる評価を行い適切に助言することにより、生徒が自らの学びを調整しながら学習を進めることができる。</p> </div>	<p>・議論する際には共同編集ソフトで資料を共有することで、各自の意見を可視化するとともに、考えの変容を捉えやすくする。</p> <p>・グループでの議論や、クラスでの発表をもとに、最終的な自分の意見をまとめる。</p> <div data-bbox="689 817 1189 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ1 (例) 武士政権を確立した源氏の血筋であるA氏は、天皇中心ではない武家中心の政治を目指していることから、今度こそ武士中心の正しい世の中を作ってくれると思うから。</p> </div> <div data-bbox="689 1034 1189 1243" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ2 (例) 北条氏によって乱れた世の中を正すために、今後力をつけることが予想される民衆を味方につけ、いままでのような天皇中心の政治を目指したB氏のほうが長く権力をもちそうだから。</p> </div> <div data-bbox="944 1265 1439 1438" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント② 評価する際には、どちらの武士を選択したとしても、「武士の政治の進出と展開」に着目し、二人の武士の類似や差異などを明確にし、事象同士の因果関係などで関連付けてまとめているかを評価する。</p> </div> <p>・振り返り際には、本時の学習での自己の考えの変容や、単元を貫く問いに対する到達状況を捉えさせる。</p>	<p>【思・判・表】 二人の武士を比較する学習を通して、武家政治の動きとその特徴を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【主】 南北朝の争乱期の日本について、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</p>

6 板書計画

**単元を貫く問い** 中世はどのような人が力を持ち、変化し、近世につながったのか

---

**課題** もし自分が1330年代の武士なら、人物A・Bどちらにつくだろう

人物A	人物B	各班の発表	まとめ						
 どんな人？ ・ ・	 ・ ・	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; height: 20px;"></td></tr> </table>							  

## 7 事例のポイントと考察

### (1) 事例のポイント

①単元計画の工夫をすることで、生徒が自己調整（自らの学習の調整）を図りながら学びを深めていくことができるようにする。

社会科における自己調整とは、①学習の計画段階で、課題を考えたり、学習の見通しを立てたりする。②学習の進行場面で、自らの学習自体を観察し、調整する。③学習の結果としての目標の達成状況を自己評価する。といった場面が考えられる。

本単元では「中世はどのような人が力を持ち、変化し、近世につながったのか」という単元を貫く問いを設定し、この問いを解決する過程として第一次～第三次の課題を設定し、①～③の場면을意識的に位置づけことで、生徒が自己調整を図りながら学びを深めていけるような単元計画の工夫をした。

学習における自己調整は、他の生徒との協働的な学びを通して自らの意見を再構築する過程と捉えることもできる。本事例では、自らの考えの変容を可視化するために、ポートフォリオ式ワークシート「社会科学びの地図」を活用した。「社会科学びの地図」の活用によって、生徒の学習の可視化だけでなく、教師が学習改善につながる評価と、適切な指導をすることによって、課題解決のための道筋が合っているのかを確認したり、違う角度から事象を捉えたりするなど、生徒が自らの学習を客観視し、調整することができるようにした。

②「問い」を工夫することで、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて学習を進めていくことができるようにする。

見方・考え方を働かせるためには「問い」が重要であり、「見方・考え方」と「問い」をセットにすることで正しく機能する。「問い」を工夫することで、生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせながら学習を進めていくことができる。

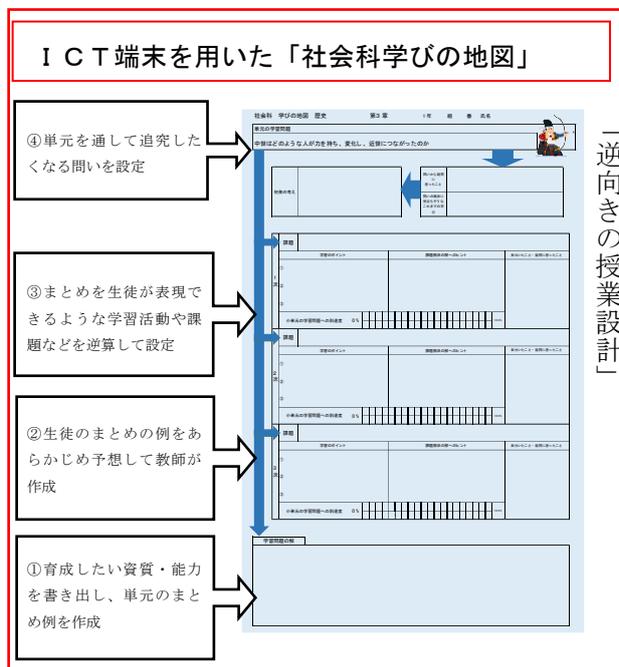
歴史的分野では、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を「時期、年代など時系列に関わる視点」「展開、変化、継続など諸事情の推移に関わる視点」「類似、差異、特色など諸事象の比較に関わる視点」「背景、原因、結果、影響など事象相互のつながりに関わる視点」の4つの視点で整理している。本単元では、武士政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達に着目して問いを設定した。例えば第一次の課題「武士はなぜ生まれ、どのように権力を持っていったのだろうか」は、時系列に関わる視点や推移に関わる視点を意識して設定した。また、第四次の課題「民衆の成長を背景にどのように社会や文化は変化したのだろうか」では、推移に関わる視点、事象相互のつながりに関わる視点を意識している。このように、その「問い」を追究する学習が展開される際、生徒がどのような見方・考え方を働かせるか、教師がイメージをもって授業を構想することが重要である。

③ICT端末を用いてポートフォリオ式ワークシートを蓄積することで、生徒の学びの振り返りと教師の適切な評価につなげる。

見方・考え方を働かせるための工夫として、「社会科学びの地図」というポートフォリオ形式のワークシートを活用した。単元ごとに、生徒は一枚のワークシートを作成し、ICT端末でデータを蓄積している。「社会科学びの地図」には学習当初の生徒の考え（初発の考え）、学習の内容、学習後の振り返りを記述する。単元が終わるごとに評価し、教師が学習を支援する記述を書き込みデータ上で返却する。「社会科学びの地図」によって、生徒の学習におけ

る変容を教師が把握し、学習支援を適切に行うことができる。生徒への学習改善につなげる評価を的確に行い、学習を内省させていくためにICT端末の効果的な活用は重要である。生徒の記述の内容が不十分であったり、ねらいに迫ることができていなかったりする場合は、単元や授業の構成が生徒の実態に合っていないと判断する。生徒の記述を振り返ることで、次の単元の組み立てや授業改善に生かすことができる。

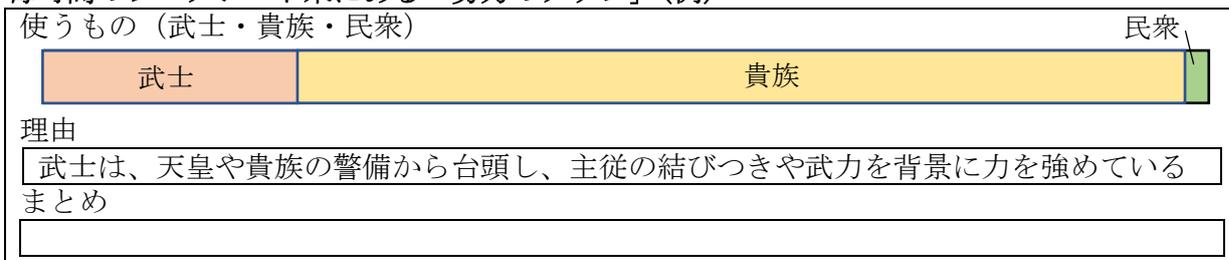
「社会科学びの地図」の作成に際しては、単元計画の段階で、育成したい資質・能力を設定し、そこから授業を逆算して単元の構成を設計していく「逆向きの授業設計」とあわせて行うことでさらに効果がある。



## (2) 実践に当たっての留意点

- ・本単元を通して「勢力グラフ」を用いた学びの場面を設定した。「中世は武士の時代」という一面的な見方で終わることなく、様々な身分の台頭により、様々な権力が複雑に絡み合っただけで時代が変化していったことを「勢力グラフ」を用いて捉えさせることができた。

### 毎時間のワークシート末にある「勢力のグラフ」(例)



- ・本時の課題では、武士A・Bどちらにつくべきか考察する際に、古代、中世で学習してきた天皇・貴族・武士・民衆などの身分の立場に立ったり、小学校の歴史で学んできた様々な人物や、現在の日本の生活と関連づけて考察したりすることも「見方・考え方」を働かせる手立てとして有効であると考えます。
- ・本時の授業では、埼玉県に当時住んでいた武士だったらどうするか、という視点から課題を捉えさせることによって、南北朝の動乱をより身近に感じるだけでなく、自分ごととして考えることをねらった。その際、足利尊氏、新田義貞の名前を示さずに考えさせることで、選択の偏りを減らし、より活発な議論になるようにした。配布資料はあくまで例である。生徒の実態に応じ、資料に記載する内容の量や質を考え、授業の目標を達成できるかという視点で作成することが重要である。

## 本時に配布する資料（例）

### 人物Aのプロフィール

源義家の孫の義康から出た源氏の名門出身。

下野しもつけ（栃木県）の本拠地の他に、常陸（茨城県）、下総（千葉県）、など関東の各地や三河（愛知県）に勢力を持っている。幕府の中でも有力な御家人。



野望	執権の北条氏の政治ではなく、源氏の血筋による武士による政治の復活を目指す。
天皇との関係	過去には親密なこともあったが、天皇の政治があまりにも貴族に有利だったため、反発し武家政治の復活をはかった。
人柄	<ul style="list-style-type: none"><li>・心が強く、命の危険にさらされる合戦でも笑顔を絶やさない。</li><li>・戦では死を恐れない。</li><li>・情け深く、他人を恨むことを知らず、仇敵さえ許して我が子のように接する。</li><li>・新しく得た領地を部下の武将に分け与えるなど、気前がよかったことからとても慕われていた。</li></ul>
戦について	天皇と親密な頃は、幕府の天皇を倒す命令に背き、天皇側に寝返った。多くの軍勢を率いて京都の六波羅探題を攻め落とした。北条氏を倒す。

### 人物Bのプロフィール

Aの人物と同じ源氏の名門の出身。義家の孫の義重から出た家柄で、上野こうずけ（群馬県）、播磨（神戸県）、越後（新潟県）、駿河（静岡県）を支配していた有力な御家人。Aの人物とはライバル関係。



野望	苦しむ民衆のため立ち上がり、鎌倉幕府打倒を掲げた。
天皇との関係	天皇の信頼を一番受けている。一度天皇に味方することを決めてからはぶれることなく一族郎党を率いて、天皇に尽くす。
人柄	<ul style="list-style-type: none"><li>・「恥をさらすより、例え負けても正々堂々戦いたい」と言い、しばしばAの人物と一騎打ちを挑んで勝敗を決しようとする一面も。</li><li>・戦い方は正々堂々を大切にし、天皇に尽くした。</li><li>・ずるい政治手段を使わない。</li><li>・常に戦闘では真っ先にたち、部下を大切にしました。</li><li>・実に武士らしい人物</li></ul>
戦について	千早城の戦いに加勢するも、簡単に城が落ちないと判断し、チャンスをつねらっていた戦略家。民衆をできるだけ巻き込まないように戦う配慮もした。天皇の命令を受けて鎌倉幕府を攻め落とす。関東の武士はぞくぞくと彼のものにと集まり20万人の大軍になったという。腐敗した鎌倉幕府を倒した立役者とされている。